

会議等結果報告書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	271
		決裁期日	平成30年11月5日
名 称	第3回上富良野町協働のまちづくり推進委員会		
日 時	平成30年10月23日（火） 午後7時00分～午後9時20分		
場 所	役場3階 第3会議室		
出席者	協働のまちづくり推進委員10人（別紙名簿のとおり） 事務局：町民生活課 北越課長、自治推進班 床鍋主幹、船引主査 説明員：企画商工観光課 地域活性化担当 浦島主幹、ジオパーク推進室 佐藤室長 合計15人		

[進行：事務局（町民生活課長）]

◎ 会長あいさつ

第2回委員会でジオパークと泥流地帯の映画化に向けた事業の進捗状況や期待することについて情報共有をしたいとの意見が多かったことから、今回は各事業の各担当者より説明していただく。

委員の皆さんは各団体を代表して参加されていることから、知り得た情報を持ち帰って、団体としてできることを考えて活動していただきたい。

[進行：持安会長]

1 議 題

(1) 町が進めている事業に係る情報共有について

① 泥流地帯映画化プロジェクト

企画商工観光課地域活性化担当 浦島主幹より説明。

「泥流地帯」は上富良野町を舞台に三浦綾子自らが取材して書いたベストセラー作品であるとともに、本の内容が上富良野史といってもいいほどの作品であるため映画化を進めることとなった経緯を説明。映画製作会社も決まり、町では映画化を進める会を発足し、町民とともにロケ支援を行う予定。財源は個人と企業からのふるさと納税を主とするが、今後、製作まである程度の時間がかかることから、町内での機運を高めていくことについて協力依頼があった。

谷江委員：財源はふるさとの納税とのことだが、直接、ロケ支援の費用に充てられるのか。

また、費用はいくら必要で、どのくらい集まっているのか。もし、ふるさと納税で費用が集まらない場合はどうなるのか。

浦島主幹：ふるさと納税は直接その費用に充てられるのではなく、映画化を進める会に負担金として支出し、宿泊や食事の費用、機運醸成事業に充てるもので、製作会社からはロケ支援に5,000万円ほど必要だと聞いている。現在は200万円ほど集まっているが、今後は実際の活動にあわせてふるさと納税が集まることが好ましいと考えている。企業版ふるさと納税については企業の地域振興にもつながるほか、映画のエンドロールで名前が流れることから、各社で企業PRの一環として納税しているところもある。不足した場合は一般財源からの支出となるが、ふるさと納税と一般の寄付でまかなえる予定。そのようにならないようPRしていく。

田中委員：映画化の話はこれまでも聞いていたが、今回の説明は分かりやすかった。住民会などで積極的に説明してほしい。

浦島主幹：出前講座も行っているなので、地域でも活用していただきたい。

持安会長：映画化することで、町は何を期待しているのか。

浦島主幹：映画のロケ地を活用するといった観光の活性化や、町民が十勝岳をまちの振興の核として意識することを期待するほか、映画を通して後世に泥流災害が発生したことを伝え、地域振興につなげたい。

森本委員：完成するまで時間がかかるとのことだが、見通しは立てられないか。

浦島主幹：あくまでも製作会社がスケジュールを決めることとなるが、製作については2年以上には取り組んでいただきたいと考えており、製作会社にも働きかけていきたい。

② 十勝岳ジオパーク構想

企画商工観光課ジオパーク推進室 佐藤室長より説明。

ジオパークの取り組みは、これまで「景色がいいね」で終わっていた十勝岳の自然について、環境を保全しながら、地域を深掘し、科学的な要素や歴史・文化、教育などの要素から「屋根のない博物館」とするために実施。ジオパーク実現のためにも保全や観光、教育などの活動から、地域住民自らが継続して行う必要があることを説明した。

谷江委員：ジオパークの活動に学校が入っているのはとても良いと思う。活動を進める前には、教育でこのようなことは実施していたのか。

佐藤室長：以前から教育の場面では、副読本を使って上富良野町の郷土を学ぶ授業があった。

ジオパーク認定の審査員からは、ほかの地域にはなかなかないものとして高評価を受けている。そのほかにも町内では小学校では親子砂防見学会など十勝岳の噴火の歴史や地域の対策について学ぶ授業が行われており、地域からも講師となって授業を支援してくれている方がいるなど、ジオパーク活動の下地がすでにできている部分もある。

持安会長：活発な活動が行われているのになぜ、認定に至らなかったのか。

佐藤室長：理由としては認定に向けての準備期間が短かったこと、優れた部分があっても活動の下地や実績が足りないことが審査員から指摘されている。今後は長期的に体制づくりを取り進めていく。

谷江委員：世界遺産の取り組みにはお金がかかると聞く。ジオパークの活動についてもお金はかかるのか。民間に受け渡さないとならないのか。

佐藤室長：十勝岳の自然環境を保全するにはお金がかかる。また、優れたジオパークであっても、それも説明する人が必要であることから学芸員を雇う費用は必要。教育については町（教育委員会）が行う必要があるが、ガイドや観光については民間でと考えている。理想としてはジオパーク推進協議会やNPOだが、まだ実力は付いていない。

(2) まちづくりフォーラムの開催について

自治推進班 床鍋主幹より説明。

事務局より今年度の開催にあたり、12月と2月に開催を提案。昨年、開催時には「協働のまちづくり推進補助金」を活用した団体に事業実施報告を兼ねてのパネルディスカッションを実施したことを踏まえ、今年度の内容について検討した。

委員の意見により、12月は事務局の提案する企画（事業実施報告を兼ねてのパネルディスカッション）を実施し、2月の開催については委員で実施する内容について検討するものとする。内容については委員より事前に提案してもらい事務局でまとめ、次回会議で話し合い決定する。

3 その他

・床鍋主幹から10月24日（水）にまちづくりトークを実施することについて説明した。

次回会議について

次回会議は、11月27日（火）18時30分から 役場3階第3会議室で行う。

◎ 副会長あいさつ

皆様には長時間にわたり、活発に意見を出していただいた。泥流地帯の映画化とジオパークの説明については出前講座を受けているようでもあり、とても勉強になった。今回のようにこの会議ではわからないことでも、意欲的に一歩踏み込める会議になればいいと思う。

【会議録は決裁終了後、行政ホームページ、町政情報提供コーナーに公開】